

【2020年度 第2四半期決算説明会】 質疑応答概要

※説明会における主な質疑応答をご紹介します。

<日 時> 2020年11月12日(木) 13:00 ~ 14:30

<出席者> 明治ホールディングス(株)

- ・代表取締役社長 CEO 川村 和夫
- ・取締役執行役員 COO(医薬品セグメント) 小林 大吉郎
- ・取締役執行役員 COO(食品セグメント) 松田 克也
- ・取締役専務執行役員 CFO 塩崎 浩一郎
- ・取締役専務執行役員CSO 古田 純

Q1: 来年度からの2023中計でROICを導入する背景は。

A1: 資本効率に対する投資家の意識が高くなっていることを踏まえ、投資家と経営の目線を合わせるためにROICを重視した方針を掲げていく。また、ROICは事業部門単位での資本効率をみることができるため、幅広い事業ポートフォリオを持っている当社としては、社内における共通言語としてROICの指標を活用していきたい。

Q2: 2023中計の財務戦略では成長投資と株主還元へシフトするとのことだが、どのような考えか。

A2: 経営統合以降、財務基盤の強化、成長投資、株主還元を目標に掲げてきた。財務基盤の強化について目標に近づいてきたことから、2023中計では、キャッシュフローの使い道を成長投資と株主還元へよりシフトさせていく。従って、配当性向については、従来以上に前向きな方針を検討している。

Q3: 発酵ダイリーの来期以降の成長性および営業利益率の水準については、どのように考えているか。また、牛乳事業の黒字化への取り組みの進捗状況は。

A3: ここ数年、当社の成長ドライバーは発酵ダイリーであり、来期についても発酵ダイリーを中心に事業を成長させていく考えである。特に先行き不透明なコロナ禍において、事業を安定的に運営していくためには、強い商品をより成長させていくことが重要だと考える。

発酵ダイリーの営業利益率は、上期で約18%と高い水準にあるが、今後も、引き続き原価低減に努め、利益率の向上を図っていく。

牛乳事業の利益改善は着実に進んでいるので、環境変化に適応しながら黒字化の実現を目指す。

Q4: 2023 中計にて、明治グループ全体で海外売上高比率 10%以上を目指すとのことだが、どのように進めるか。

A4: 現在の海外売上高比率は 7%程度であり、2023 中計では、主に食品事業を伸ばしていくことにより、海外売上高比率を 10%以上まで引き上げたい。特に重点エリアとしている中国、東南アジア、アメリカでの売り上げ拡大がポイントである。収益性の高いカテゴリーを強化していきたいと考えており、プロバイオの海外展開も視野に入れている。また、乳幼児ミルクやスポーツ栄養についても、様々な取り組みを行っており、ザバスは 8 月に中国での販売を開始した。

Q5: 菓子事業はどのようにして売り上げを回復させるか。

A5: チョコレート効果やオリゴスマートといった健康志向チョコレートの売り上げは、第2四半期は回復している。スペシャルティチョコレートのザ・チョコレートも、9月に大幅リニューアルを実施した。チョコレート市場全体が縮小しているのではなく、コロナ禍による環境の変化によって、オフィス向け等の需要が一時的に低迷していると思われる。健康志向チョコレートやスペシャルティチョコレートの訴求を強化し、チョコレート事業の回復を図っていく。
グミにおいても、新たな需要を喚起し、売り上げを拡大していきたいと考えている。

以上